

児童・生徒の現状・課題

学習に対して前向きに取り組むことができる児童の割合は高いものの、できないことや苦手なことがあると、粘り強く取り組むことが難しい。また、学習課題に対して自分の考えをもつことや、主体的に学習に取り組むことに課題がある。

学び続ける力を育むための重点目標

自分の考えをもち、ともに学び合うことができるようにする。

児童生徒調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(7月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	90.0	93.0	86.1
②取り組む課題や調べ方、話し合う相手や発表方法など、学び方を自分で選び、学習を進めることができる。	90.0	93.0	85.2

教員調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(7月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	80.0	100.0	83.3
②授業の始めには前の授業で学習したことを振り返ったり、1単位時間(本時)や単元全体のねらいや流れを、明確に示したりして、学習の見通しをもてるようにしている。	95.0	100.0	94.4

具体的な手だて①

- ・ 教材との出会いを大切にしたり、課題把握がしやすい導入の工夫をしたりする。
- ・ 教材から感じたこと、分かったことを共有する場面を設ける。(共同)

具体的な手だて②

- ・ 他の人と考えを交流したり、協力して活動に取り組んだりする場面を設定する。
- ・ 教材から受けた各自の思いを共有し、自分の考えとの違いについて考え、気付いたことを表現する。(協同)

具体的な手だて③

- ・ 共に学習する仲間、学習する場所、ツールなど、目的に沿って、自ら選択できる場面を学習計画に合わせて設定する。
- ・ 教材から考え、まとめたことを他教科に生かすことができるようにする。(協働)

校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫

- ・ 校内研究を通して、全員が選択場面を意識した授業展開を考えることができるようにするために、指導案の型を示し、その内容をもとにした指導案作成と授業を行うことができるようにする。また、授業観察の際には、指導案を全教員に配布し、授業を互いに見合うことができる環境をつくる。
- ・ 全校共通の教室掲示物を作成し、一貫した指導ができるようにする。

総括(7月)

自分の考えをもつことに課題がある児童がいたり、他者との交流場面においてその活動が有意義に行えていなかったりするという実態がある。それは、課題把握が正確にできていないことや、受け身的な授業が多いからであるという課題が上がった。そこで、教材の出合わせ方や導入の工夫を行うこと、学習計画に合わせて、児童に選択させる場面を設定することを授業改革の芯に据えた。

総括(1月)

教員は、「児童に選択させる場面を設定する」意識を少しずつもってきている。しかし、児童が自ら計画を立て、学習できているという自覚は昨年度より低くなっている。教科、単元を精査し、より多くの場面で児童が選択できる場面を設定していったり、毎時間の振り返りを徹底し、そこから自分にとっての次時の活動への見通しがもてたりするような手立てを講じる必要がある。また、学んだことを基に、さらなる探求活動を主体的にすすめる時間を設定するなど、次年度以降も、校内研究や日々の授業の中で有効な手立てを考え、教員間で情報共有し、授業改革を図っていく。